

平成29年10月13日17:00～18:00

会場：岡山コンベンションセンター 4階 407会議室

平成29年度日本腎臓学会広報委員会 第1回キーパーソン会議

@第47回日本腎臓学会西部学術大会

日本腎臓学会広報委員会

副委員長 猪阪 善隆

幹事 伊藤 孝史

平成29年10月28日 7:15~8:00

会場:パシフィコ横浜会議センター 5階 511+512

平成29年度日本腎臓学会広報委員会 第1回キーパーソン会議

@第47回日本腎臓学会東部学術大会

日本腎臓学会広報委員会

委員長 中山 昌明

副委員長 猪阪 善隆

幹事 伊藤 孝史

委員 長田太助、鶴岡秀一、鈴木 仁

【はじめに】

- ①キーパーソン、キーパーソン会議の意義

【腎臓学会の現在の取り組みに関する報告】

- ①腎臓学会の現状(会員数、評議員数など)
- ②理事長直轄重点事業
 - 1)JSN5カ年計画
 - 2)腎臓病療養指導士
- ③ 新専門医制度について
- ④腎臓病対策委員会の取り組み(糖尿病性腎症重症化予防など)
- ⑤ISN Frontiers meeting 2018
- ⑥第61回学術総会、第48回東・西学術大会のお知らせ
- ⑦日本腎臓学会ロゴマーク取扱規定
- ⑧CKD診療ガイド・ガイドライン改訂中

【特別講演】

大阪府立高校検尿異常者に対する腎臓専門医紹介システム

【質疑応答】

キーパーソン、キーパーソン会議の意義

都道府県のキーパーソンを通じて各地からの情報収集と情報の発信を行い、日本腎臓学会地方会組織の整備拡充につとめる。

- ① 日本腎臓学会東部部会、西部部会それぞれに会期中にキーパーソン会議を開催し、各地の実情を確認。 また日本腎臓学会の基幹事業を報告し、協力要請する。
- ② 各都道府県単位での現在実施されている研究会等の後援等の支援を行う。
- ③ 腎臓専門医の地域偏在の解消に向けた活動の模索をする。
- ④ 各地で開催される日本腎臓学会サテライトシンポジウムなどの共催・後援体制を確立する。

全国のキーパーソンの先生方

都道府県	大学関係			その他			都道府県	大学関係			その他		
	名前	所属		名前	所属			名前	所属		名前	所属	
北海道	西尾妙織	北海道大学病院内科Ⅱ		浦 信行	札幌西円山病院循環器内科		岐阜	村田一知朗	岐阜大学CKD医療連携講座		小田 寛	岐阜県立岐阜総合医療センター腎臓科	
	藤野貴行	旭川医科大学内科学講座循環・呼吸・神経・病態内科学分野		平山智也	医療法人仁友会北彩都病院		愛知	丸山彰一	名古屋大学腎臓内科		玉井宏史	JA愛知厚生連安城衛生病院腎臓内科	
青森	中村典雄	弘前大学大学院医学研究科地域医療学講座		貝塚潤明	医療法人社団クロス・トゥ・ユー E S T クリニック腎臓内科		三重	石川英二	三重大学医学部附属病院血液浄化療法部				
岩手	田中文雄	岩手医科大学医学部心血管・腎・内分泌内科		相馬 淳	岩手県立中央病院腎臓リウマチ科		滋賀	荒木信一	滋賀医科大学糖尿病内分泌・腎臓内科		杉本俊郎	東近江総合医療センター	
秋田	小松田敦	秋田大学医学部附属病院腎臓内科		大谷 浩	JA秋田厚生連秋田厚生医療センター腎臓内科		奈良	赤井靖宏	奈良県立医科大学地域医療学講座		森本勝彦	奈良県総合医療センター腎臓内科	
宮城	宮崎真理子	東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科		佐藤 壽伸	JCHO仙台病院		和歌山	重松 隆	和歌山県立医科大学腎臓内科学		東 義人	日本赤十字社和歌山医療センター腎臓内科	
山形	今田恒夫	山形大学腎臓膠原病内科		出川紀行	山形市立病院済生館腎臓内科		京都	横井秀基	京都大学医学部研究科腎臓内科		家原典之	京都市立病院腎臓内科	
福島	風間順一郎	福島県立医科大学腎臓高血圧内科学講座		亘理裕昭	財団法人大原総合病院附属大原医療センター 腎臓内科		大阪	猪阪善隆	大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学		林 晃正	大阪府立急性期・総合医療センター腎臓・高血圧内科	
新潟	成田一衛	新潟大学医学部腎・膠原病内科		山崎 肇	長岡赤十字病院腎臓内科		兵庫	藤井秀毅	神戸大学大学院医学研究科 腎臓内科／腎・血液浄化センター		和泉雅章	関西労災病院内科	
長野	上條祐司	信州大学医学部附属病院腎臓内科		樋口 誠	(独) 国立病院機構まつもと医療センター 松本病院		島根	伊藤孝史	島根大学医学部附属病院腎臓内科		漆谷義徳	松江赤十字病院膠原病・腎臓内科	
群馬	前嶋明人	群馬大学腎臓・リウマチ科		三島敬一郎	群馬県済生会前橋病院腎臓リウマチ内科		岡山	杉山 斉	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科血液浄化療法人材育成システム開発学		太田康介	国立病院機構岡山医療センター腎臓内科	
栃木	長田太助	自治医科大学内科学講座腎臓内科学部門		平野景太	足利赤十字病院腎臓内科		鳥取	宗村千潮	鳥取大学医学部附属病院腎臓内科		中岡明久	山陰労災病院内科	
茨城	斎藤知栄	筑波大学医学医療系臨床医学域腎臓内科学		植田敦志	日立製作所日立総合病院		広島	正木崇生	広島大学病院腎臓内科		横山敬生	広島赤十字・原爆病院 腎臓内科	
千葉	浅沼克彦	千葉大学大学院医学研究科腎臓内科		今澤俊之	(独) 国立病院機構千葉東病院 腎センター		山口	池上直慶	山口大学大学院医学系研究科器官病態内科学（第二内科）		新田 豊	山口県済生会下関総合病院腎臓内科	
埼玉	長谷川 元	埼玉医科大学総合医療センター腎・高血圧内科、血液浄化センター		中里優一	友愛日進クリニック		香川	祖父江 理	香川大学医学部附属病院腎臓内科		高橋則尋	医療法人社団健愛会あきやまクリニック	
東京	鶴岡秀一	日本医科大学腎臓内科		松浦友一	国立病院機構東京医療センター腎臓内科		徳島	安部秀斉	徳島大学病院腎臓内科		川原和彦	社会医療法人川島会鴨島川島クリニック	
	菅野義彦	東京医科大学腎臓内科学分野		石橋由孝	日本赤十字社医療センター		愛媛	大庭隆文	愛媛大学大学院地域救急医療学講座		上村太郎	松山赤十字病院	
神奈川	深川雅史	東海大学腎内分泌代謝内科		大竹剛靖	湘南鎌倉総合病院腎臓内科		高知	寺田典生	高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科		有井 薫	高知赤十字病院 内科	
山梨	北村健一郎	山梨大学第三内科		神宮寺祐巳	山梨県立中央病院		福岡	鶴屋和彦	九州大学大学院包括的腎不全治療学		満生浩司	福岡赤十字病院腎臓内科	
静岡	安田日出夫	浜松医科大学第一内科		森 典子	静岡県立総合病院腎臓内科		佐賀	池田裕次	佐賀大学医学部腎臓内科		中村 恵	佐賀県医療センター好生館腎臓内科	
富山	小池 勤	富山大学附属病院第二内科		川端雅彦	富山県立中央病院内科		大分	柴田洋孝	大分大学医学部内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座		金田幸司	大分赤十字病院腎臓内科	
石川	古市賢吾	金沢大学附属病院腎臓内科		中島昭勝	石川県立中央病院 腎臓内科・リウマチ科		宮崎	藤元昭一	宮崎大学医学部血液・血管先端医療学講座		山下靖宏	宮崎県立宮崎病院内科	
福井	増野健司	福井大学医学部腎臓内科学		宮崎良一	藤田記念病院内科		鹿児島	徳永公紀	鹿児島市立病院腎臓内科		野崎 剛	鹿児島市立病院内科	
							熊本	向山政志	熊本大学腎臓内科		有富健二	熊本中央病院腎臓科	
							長崎	西野友哉	長崎大学病院 第二内科腎臓内科部門		浦松 正	長崎みなとメディカルセンター腎臓内科	
							沖縄	古波蔵健太郎	琉球大学医学部附属病院循環器・腎臓・神経内科学講座		和氣 亨	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター腎リウマチ科	

(97名、敬称略)



日本腎臓学会は腎臓学研究の進歩と知識の普及、国民への還元を目的としています。

一般社団法人日本腎臓学会 Japanese Society of Nephrology

English 文字サイズ: [小](#) [中](#) [大](#)

サイト内検索: [検索](#)

[ホーム](#)

[一般の方へ](#)

[学生・研修医向け](#)

[医療従事者向け](#)

[会員向け](#)



Photo by Prof.Makino

[お知らせ](#)

[理事長ご挨拶](#)

[日本腎臓学会について](#)

[診療ガイドライン](#)

[学術情報](#)

[学術集会など](#)

[腎臓専門医](#)

[会員向け](#)

[国際関連の活動報告](#)

[男女共同参画について](#)

[サポーター制度](#)

[キーパーソン報告](#)

[Journal](#)

[海外留学情報サイト](#)

[腎臓病療養指導士について](#)

重要なお知らせ

[一覧はこちら](#)

2017.08.14 【第47回西部大会】「西部若手腎臓クイズチャンピオン大会」出場者募集のご案内

2017.07.04 ISN FRONTIERS MEETINGS広報小委員会からのお知らせ

2017.06.02 仙台宣言

2017.06.01 第39回 腎臓セミナー・Nexus Japan 平成29年8月26日（土）

2017.05.01 平成29年度日本腎臓学会総会審議事項（第60回学術総会会期中開催）

ニュース&トピックス

[一覧はこちら](#)

2017.09.13 55th ERA-EDTA Annual Congressについて

2017.09.04 【更新】海外留学情報サイト更新のお知らせ

2017.09.01 Asian Pacific Congress of Nephrology (APCN 2018) – call for abstract

2017.08.29 日本腎臓学会5ヶ年計画

2017.08.28 ISN FRONTIERS MEETINGS 2018についてのQ&A

学術集会のご案内

[一覧はこちら](#)

今後の学術集会

第47回日本腎臓学会東部学術大会[別ウィンドウ]

第47回日本腎臓学会西部学術大会[別ウィンドウ]

腎臓の健康チェック!!



[腎機能測定ツール](#)

年齢と血清クレアチニン値からeGFRの値を推算できます



一般社団法人日本腎臓学会 Japanese Society of Nephrology

English 文字サイズ: [小](#) [中](#) [大](#)

サイト内検索: [検索](#)

[ホーム](#)

[一般の方へ](#)

[学生・研修医向け](#)

[医療従事者向け](#)

[会員向け](#)



[お知らせ](#)

[理事長ご挨拶](#)

[日本腎臓学会について](#)

[診療ガイドライン](#)

[学術情報](#)

[学術集会など](#)

[腎臓専門医](#)

[会員向け](#)

[国際関連の活動報告](#)

[男女共同参画について](#)

[サポーター制度](#)

[キーパーソン報告](#)

[Journal](#)

[海外留学情報サイト](#)

[腎臓病療養指導士について](#)

キーパーソン報告

- 第45回西部学術大会 広報委員会キーパーソン会議 スライド紹介
- 第56回学術総会 第1回広報委員会キーパーソン会議 スライド紹介
- 第43回東部・西部学術大会 第2回広報委員会キーパーソン会議 スライド紹介
- 日本腎臓学会広報委員会キーパーソンの役割

○ 広報委員会キーパーソン会議 スライド紹介

第45回西部学術大会 広報委員会キーパーソン会議 スライド紹介

第45回日本腎臓学会西部学術大会に開催された、【合同会議】広報委員会キーパーソン会議・J-CKDI各都道府県代表者会議の講演スライドがご覧いただけます。

第45回日本腎臓学会西部学術大会 広報委員会キーパーソン会議・J-CKDI各都道府県代表者会議	
会 期	平成27年（2015年）10月23日（金）
会 場	石川興社会福祉会館
講演内容	1. 島根大学医学部附属病院腎臓内科・島根県慢性腎臓病対策協議会の活動 [PDF 4.2MB] 伊藤 孝史先生（島根大学医学部附属病院腎臓内科）

第56回学術総会 第1回広報委員会キーパーソン会議 スライド紹介

第56回日本腎臓学会学術総会にて開催された、第1回広報委員会キーパーソン会議の講演スライドがご覧いただけます。

第56回日本腎臓学会学術総会 第1回 広報委員会キーパーソン会議	
会期	平成25年（2013年）5月11日（土）
会場	東京国際フォーラム
講演内容	1. CKD普及活動について [PDF 5.4MB] 八田 告 先生 八田内科医院（近江八幡市立総合医療センター） 2. 腎臓病総合レジストリーJ-RBR/J-KDR 活動内容について [PDF 535KB] 杉山 齊 先生（岡山大学慢性腎臓病対策研究不全治療学） 佐藤 博 先生（東北大学臨床薬学分野） 上田 善彦 先生（獨協医科大学越谷病院病理部） 横山 仁 先生（金沢医科大学腎臓内科学）

○ 第43回東部・西部学術大会 第2回広報委員会キーパーソン会議 スライド紹介

第43回東部学術大会、西部学術大会にて開催された、第2回広報委員会キーパーソン会議の講演スライドがご覧いただけます。

第43回東部学術大会 第2回広報委員会東部キーパーソン会議	
会期	平成25年（2013年）10月4日（金）
会場	グランドプリンスホテル新高輪 国際館バミール
講演内容	1. 臨床試験の正しい見方 [PDF 1.4MB] 山崎 力先生（東京大学附属病院臨床研究支援センター） 2. キーパーソンの先生方にお話ししたいこと [PDF 157KB] 山藤邦弘先生（広報委員会副委員長）

腎臓学会の現在の取り組みに関する報告

- ① 腎臓学会の現状(会員数、評議員数など)
- ② 理事長直轄重点事業
 - 1) JSN5カ年計画
 - 2) 腎臓病療養指導士
- ③ 新専門医制度について
- ④ 腎臓病対策委員会の取り組み
(糖尿病性腎症重症化予防など)
- ⑤ ISN Frontiers meeting 2018
- ⑥ 第61回学術総会、第48回東・西学術大会のお知らせ
- ⑦ 日本腎臓学会ロゴマーク取扱規定
- ⑧ CKD診療ガイド・ガイドライン改訂中

①日本腎臓学会の現状

会員数(平成29年3月31日現在)

正会員			名誉会員	団体会員	賛助会員	合計
一般会員	評議員	功労会員				
9405	629	268	60			10362名
小計 10302名(入会申請中の193名を除く)				24	36	60団体

地区別正会員数(平成29年3月31日現在)

東 部	正 会 員	西 部	正 会 員
北海道	280	北 陸	307
東 北	563	東海 (静岡を除く)	786
関 東	3867	近 畿	1766
甲信越	412	中 国	560
静 岡	227	四 国	291
		九 州	1114
		沖 縄	127
計	5349	計	4951
外 国	2		
合計	10302		

地区別評議員数(平成29年3月31日現在)

東 部	評議員	西 部	評議員
北海道	13	北 陸	24
東 北	37	東海 (静岡を除く)	42
関 東	264	近 畿	119
甲信越	25	中 国	32
静 岡	21	四 国	16
		九 州	31
		沖 縄	5
計	360	計	269
合計	629		

② 理事長直轄重点事業

1) JSN5カ年計画

日本腎臓学会は腎臓学研究の進歩と知識の普及、国民への還元を目的としています。

一般社団法人 日本腎臓学会 Japanese Society of Nephrology

ホーム 一般の方へ 学生・研修医向け 医療従事者向け 会員向け

Photo by Prof. Makino

Japanese Society of Nephrology

お知らせ

- 理事長ご挨拶
- 日本腎臓学会について
- 診療ガイドライン
- 学術情報
- 学術集会など
- 腎臓専門医
- 会員向け
- 国際関連の活動報告
- 男女共同参画について
- ポスター制度
- キーパーソン報告
- Journal
- 海外留学情報サイト
- 腎臓病療養指導士に

腎臓の健康チェック!!

腎機能測定ツール

年齢と血中クレアチニン値からeGFRの値を推算できます

663 いいね

一般社団法人 日本腎臓学会

Facebookページ

[URL]

www.facebook.com/jsnorpj

重要なお知らせ

2017.08.14 【第47回西部大会】「西部若手腎臓クイズチャンピオン大会」出場者募集のご案内

2017.07.04 ISN FRONTIERS MEETINGS広報小委員会からのお知らせ

2017.06.02 仙台宣言

2017.06.01 第39回 腎臓セミナー・Nexus Japan 平成29年8月26日(土)

2017.05.01 平成29年度日本腎臓学会総会審議事項(第60回学術総会会期中開催)

ニュース&トピックス

2017.09.13 55th ERA-EDTA Annual Congressについて

2017.09.04 【更新】海外留学情報サイト更新のお知らせ

2017.09.01 Asian Pacific Congress of Nephrology (APCN 2018) - call for abstract

2017.08.29 日本腎臓学会5ヶ年計画

2017.08.28 ISN FRONTIERS MEETINGS 2018についてのQ&A

学術集のご案内

今後の学術集会

第47回日本腎臓学会東部学術大会[別ウィンドウ]

第47回日本腎臓学会西部学術大会[別ウィンドウ]

第60回日本腎臓学会学術総会 動画オンデマンド視聴はこちら

○ 日本腎臓学会5ヶ年計画

一般社団法人日本腎臓学会のミッションは腎臓学・腎臓病学の研究と普及を通じて社会貢献をし、国民の負担に応えることにある。この使命を達成すべく、腎臓学の学理探究、人材育成、生涯教育の奨励、研究成果の社会還元・普及、国民の健康福祉への貢献と、学会活動は多岐にわたる。

疾患克服を目的に据えた学術研究の道程は平坦でも直線的でもなく、らせんを描きながら漸進的に深化して行くように考えている。未来を遠望し次世代を担う人材を育成しつつ、倦むことなく、遅滞なく組織として前進して行きたい。社会への貢献、次世代育成、腎臓学・腎臓病学の一層の進展、社会活動へのコミットメント、コミュニケーション・連携の強化、伝統の継承と革新、以上を学会活動の基本方針と定めている。

日本腎臓学会はこれまで、諸先輩の先見性のある卓越したリーダーシップと、貢献精神に富む学会員によって、成長を遂げてきた。この伝統を継承し、継続可能な盤石な基盤を構築し、社会貢献を行って行きたい。

「日本腎臓学会5カ年計画」は今後の日本腎臓学会の活動を決定する重要なグランドデザイン、アクションプランとなる。5カ年計画に基づき、重要度・緊急度の視点から、実施事業の優先度を決定し、計画に沿って事業を実施し、年度毎に進捗度を評価、計画修正を行う(PDCA: plan-do-check-act)ことで効率的に事業が展開できると考えている。学会活動は多岐にわたるが、事業を実施するためのリソースは無限ではなく、中長期的な視点での計画的な選択が必要となる。この活動は同時にInstitutional Research (IR) 的な役割を担うことにもなる。評価には外部委員の参画も求め、またその活動内容をHP上等で高い透明性を持って開示し、社会に開かれた学会活動を展開して行きたい。

腎臓病診療の質向上、疾患克服に向けて、学会、行政、政策立案機関、医療関係企業等の関係者が、課題の所在を正確に理解し共有する、つまり「同じ風景を見る」必要がある。医療政策、学術政策、創業に関与するステークホルダーとの交流機会・共通プラットフォーム創設に着手しているところである。

学会活動の総体を活性化・強化するためには、学術研究の卓越性の追求と同時に社会・国民との連携の強化が必要となる。高みを追求すると同時に裾野を拡大する作業は別個のものではなく、双方向性に連動するものである。広大な裾野があって、初めて高い頂きを形成することができ、頂きの高みは自ずから基盤の広がりを求めることは理路である。大きな山容をもった「学会」を形成し、次世代に継承して行きたい。5カ年計画は3次元的な活動のロードマップとなる。

日本腎臓学会は、腎臓学を通じて社会に貢献することを使命としている。学会員のみならず、社会からの幅広い支援を得ることが必要である。社会との緊密なコミュニケーションを維持して、腎臓病克服を目指して活動を展開して行きたい。この5カ年計画はその道標となるものである。

一般社団法人 日本腎臓学会 理事長
柏原直樹

ダウンロード：日腎学会5カ年計画 (pdf: 3.5M)

I. 基本方針

日本腎臓学会 5 年計画



日本腎臓学会 5 年計画

1. 日本腎臓学会の目指すべき方向性と果たすべき役割

- ① 国内外の関連学会と協同し、わが国の腎臓病対策における医療政策、提供される医療の方向性が国民にとって最適・最善なものとなるべく活動する
- ② 研究力の強化とともに国際競争力を向上させ、特にアジア腎臓学における主導的役割を果たす

[5つの重要課題]

社会とのコミュニケーション・連携の強化

人材育成、次世代への継承

研究力強化、国際連携・協働の緊密化

安定した財務基盤の構築

学会運営組織の基盤強化

2. 重要課題達成に向けた方策への提言と具体案

社会とのコミュニケーション・連携の強化

関連省庁、団体との継続的な接触と意見交換を積極的に実施する

人材育成、次世代への継承

教育・専門医制度委員を新たに設け、従来実施してきた専門医教育のみならず、人材確保に向けて新専門医制度下における腎臓病専門医の適切なポジションの獲得を目指す

研究力強化、国際連携・協働の緊密化

腎臓領域における基礎・臨床研究トレンドの分析および学会主導の臨床研究、TRの推進により、基礎研究から研究結果の社会への還元までのプロセスを強化・促進する

ISN, ASN, ERA/EDTAとの連携を加速させるとともに、APSN を軸としつつアジアでのリーダーシップを維持・進展させるべく積極的な人的交流を進める

安定した財務基盤の構築

財務委員会機能を最大活用し、事業の目的適合性、必要度、達成可能性など考慮した予算編成・配分の厳格化を図る。学術活動に伴う収益事業活動の可能性検討を進める

学会運営組織の基盤強化

理事長のリーダーシップに基づく方向性の策定と、その達成に向けた理事長直轄事業の設定および理事会の更なる活性化を推進する

II. 基礎研究

腎臓病の克服基礎研究の推進



世界をリードする腎臓研究の遂行
次世代研究者の育成
基礎研究を通じた社会貢献

基礎研究から腎臓病の克服へ



1. 基礎研究者確保のための活動

- (1) セミナーの実施、学術総会でのセッション充実
- (2) 研究者のプロフィール紹介の実施（学会プログラム、HP）
- (3) 研究助成金制度の拡充
- (4) 人材活用の促進
- (5) 海外留学の啓発と援助の実施
- (6) 海外留学中日本人研究者のための求職情報サイトの開設



3. 学会主導の研究プロジェクトの創成

- (1) 国・行政・他学会との連携
- (2) 学会主導研究テーマの選定
- (3) 実用化に向けたサポート
- (4) 研究成果の公表の場の提供



2. 基礎研究者のモチベーションの向上の活動のための活動

- (1) 研究業績に対する表彰制度の増設
- (2) MD 研究者のキャリアパスの提示
- (3) PhD 研究者のキャリアパスの紹介・提示



研究リソース、分析、集約と発信・周知

- (1) 基礎系学会との連携
- (2) 国内・外の共同研究のコーディネート
- (3) 研究室の共用可能リソースやデータの有効利用促進

4. わが国における基礎研究課題

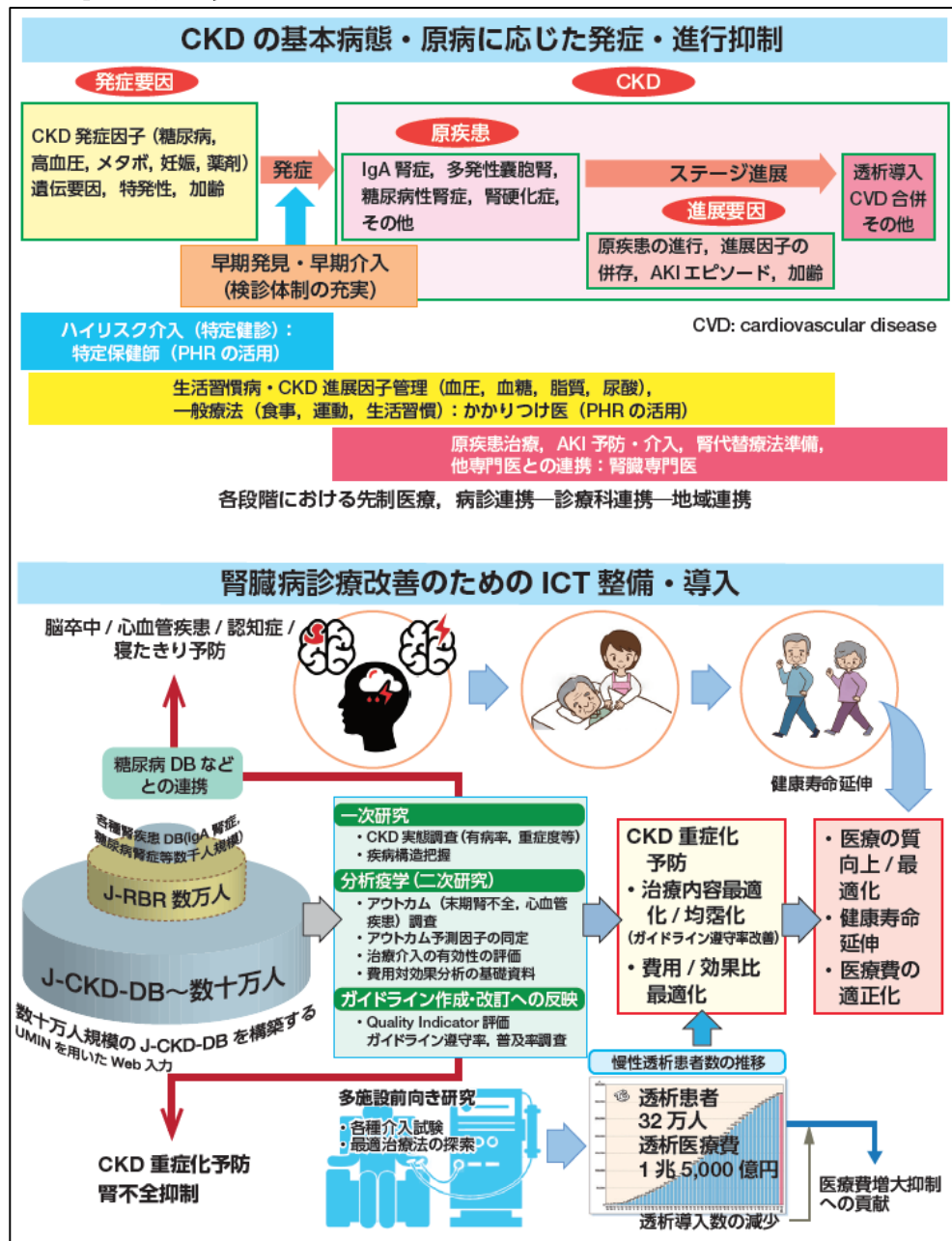
総透析患者数： 約 32 万人
新規透析導入患者数： 約 4 万人／年

◆ 透析導入予防に向けた新規治療法の開発



- ◆ 透析に代わる新規腎臓病治療の開発
- ◆ 腎臓再生研究の推進

III. 臨床・臨床研究



IV. 国際化

日本腎臓学会における国際化の取組み



V. 教育・人材育成

教育・人材育成

- 1 新専門医制度への対応
- 2 生涯教育プログラムの再構築
- 3 教育に関わる人材の育成
- 4 e-learning など ICT による教育支援システムの構築
- 5 若手腎臓医のキャリア形成支援の充実
- 6 研究倫理教育の充実

VI. 地域・社会貢献・産学連携

日本腎臓学会における地域・社会貢献・産業連携の取組み

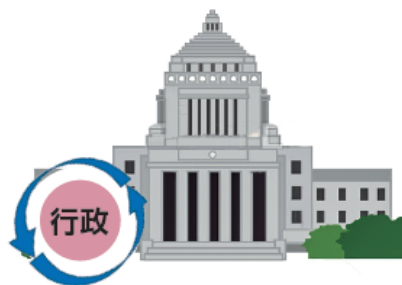
- 地域格差是正を目指した
腎臓病診療ネットワークの基盤構築
- 全国の専門医調査
 - CKD 診療, 連携の実態調査
 - 専門医不足地域への支援システムの構築, 展開
 - 診療水準向上に向け, 教育支援や啓発活動の推進



地域
医療

- 腎臓病克服事業を基盤とした社会貢献

- 腎臓病包括的対策の推進 (政策提言等)
- 国民への啓発活動の推進



行政



日本腎臓学会



産業

- 腎臓病克服事業における産学連携推進
- 創業・医療関連企業とアカデミア連携のプラットフォーム (Kidney Research Initiative-Japan: KRI-J) の構築
 - 利益相反の周知・啓発活動・ルール化の徹底と遵守
 - バイオマテリアルのバンキング事業
 - アジアへの腎臓病関連の産学連携推進対策支援



国民
患者

成果の普及啓発

腎臓病の予防・克服
日本国民の福音へつながる

② 理事長直轄重点事業

2) 腎臓病療養指導士



- お知らせ
- 理事長ご挨拶
- 日本腎臓学会について
- 診療ガイドライン
- 学術情報
- 学術集会など
- 腎臓専門医
- 会員向け
- 国際関連の活動報告
- 男女共同参画について
- サポーター制度
- キーパーソン報告
- Journal
- 海外留学情報サイト

腎臓病療養指導士について

HOME >> 腎臓病療養指導士について

最終更新：2017年8月31日

日本腎臓学会では、日本腎不全看護学会、日本栄養士会、日本腎臓病薬物療法学会と合同で、職種横断的な保存期CKD患者の療養指導に関する基本知識・技能を有したコメディカルのための資格である「腎臓病療養指導士」を創設します。このたび、募集を開始する運びとなりましたのでご案内いたします。

●受験資格：看護職（看護師・保健師）、管理栄養士、薬剤師のいずれかの資格を有し、次の要件を満たす者。

腎臓病療養指導士認定試験の応募要件→ダウンロード (117KB)

●受験者募集期間：平成29年9月1日 午前10時～9月30日 午後3時。
ウェブ画面で受験申請を受付けます。データベースと照合して実際に受講されていると確認されれば登録が完了します。なお、この申請で受講しているかの確認ができなければ、受講票のコピーを日本腎臓学会事務局宛にファックス(03-5802-5570)または郵送していただきます。



- お知らせ
- 理事長ご挨拶
- 日本腎臓学会について
- 診療ガイドライン
- 学術情報
- 学術集会など
- 腎臓専門医
- 会員向け
- 国際関連の活動報告
- 男女共同参画について
- サポーター制度
- キーパーソン報告
- Journal
- 海外留学情報サイト
- 腎臓病療養指導士に

腎臓の健康チェック!!



年齢と血清クレアチニン値から
eGFRの値を推算できます



重要なお知らせ

- 2017.08.14 【第47回西部大会】「西部若手腎臓クイズチャンピオン大会」出場者募集のご案内
- 2017.07.04 ISN FRONTIERS MEETINGS広報小委員会からのお知らせ
- 2017.06.02 仙台宣言
- 2017.06.01 第39回 腎臓セミナー・Nexus Japan 平成29年8月26日（土）
- 2017.05.01 平成29年度日本腎臓学会総会審議事項（第60回学術総会会期中開催）

ニュース&トピックス

- 2017.09.13 55th ERA-EDTA Annual Congressについて
- 2017.09.04 【更新】海外留学情報サイト更新のお知らせ
- 2017.09.01 Asian Pacific Congress of Nephrology (APCN 2018) - call for abstract
- 2017.08.29 日本腎臓学会5ヶ年計画
- 2017.08.28 ISN FRONTIERS MEETINGS 2018についてのQ&A

学術集会のご案内

今後の学術集会

- 第47回日本腎臓学会東部学術大会[別ウィンドウ]
- 第47回日本腎臓学会西部学術大会[別ウィンドウ]



「腎臓病療養指導士」の基本的考え方

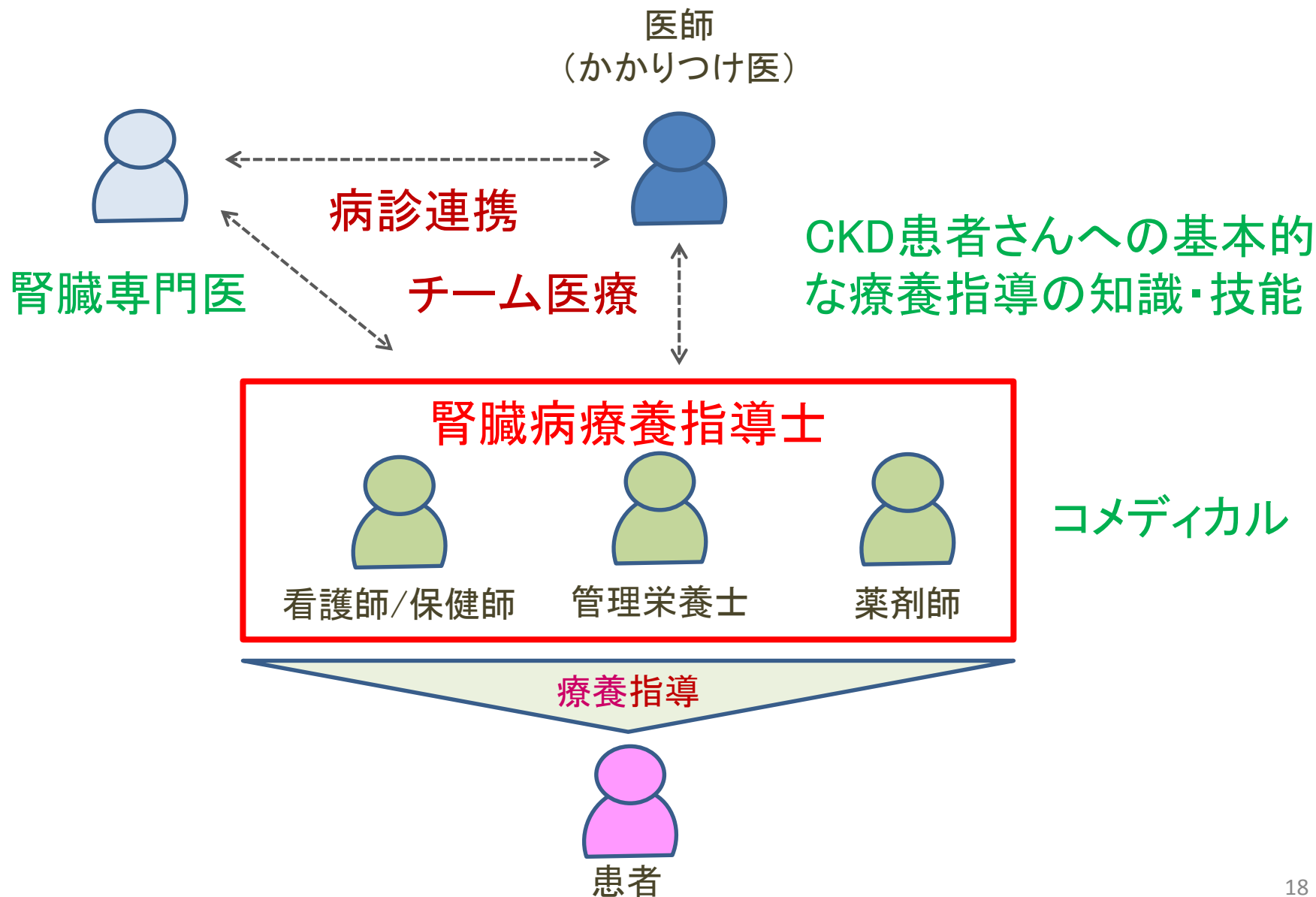
医療施設および地域におけるCKD療養指導の担い手

- 対象は、看護師、管理栄養士、薬剤師の3職種
- CKDの療養指導に関する職種横断的な基本知識および「療養指導」の实地経験を問うものとする
 - ・ 他の領域の高度専門知識は必ずしも必要としない。
 - ・ 「CKD診療ガイド」「医師・コメディカルのための慢性腎臓病生活・食事指導 マニュアル」を習得しているレベルが目安
- チーム医療と医療連携により、それぞれの医療環境において質の高いCKD療養指導を提供する
- 療養指導の対象は保存期CKD患者に限定

腎臓病療養指導士の役割

1. CKDの意義、**CKDに関する基本的な知識と対策**、およびCKDの予防について理解・習熟している
2. ステージに応じた**保存期**CKD患者への基本的管理方法を理解し、個別のCKD患者に対して**ステージに応じた包括的かつ基本的な療養指導**(生活指導、栄養指導、薬物指導)を行うことができる
3. CKDに関して腎臓専門医や他の医療従事者と**円滑な連携**がとれ、**チーム医療**に参加することができる
4. 腎代替療法についての基本的知識を有し、**3つの療法選択(血液透析、腹膜透析、腎移植)**に関する説明を行うことができる
5. AKIの基本的知識を持ち、その予防策について指導することができる
6. 自らの指導技術を高める活動を継続する
7. 後進の指導を行い、腎臓病療養指導士の育成に努める
8. CKDの啓発活動に努める
9. 地域の行政機構、医師会などと連携してCKD 対策を推進する
10. 腎臓病療養指導活動の普及に努める
11. CKDの臨床研究への参加に努める

腎臓病療養指導士のイメージ



腎臓病療養指導士認定のための講習会

場所：東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂

第1回講習会：3月19日

第2回講習会：5月 7日

第3回講習会：8月20日

3回の講習会の合計受講者数：1,203名

看護師・管理栄養士・薬剤師 対象

一般社団法人 日本腎臓学会

腎臓病療養指導士 認定のための講習会

日本腎臓学会主導のもと、
幅広くCKD患者の療養指導を担う
「腎臓病療養指導士」創設の準備が
進んでおります。認定に向けた
第1回講習会を開催いたします。

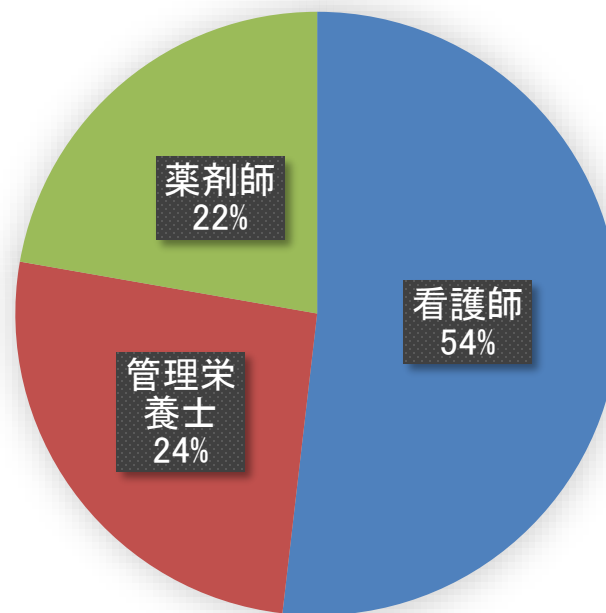
2017年
3.19日
10:00~16:00
東京医科歯科大学
M&Dタワー
鈴木章夫記念講堂

参加費 10,000円(テキスト代込)

定員
300名

事前参加登録は、右記ホームページにて1月16日より開始 <http://www.mtoyoy.jp/jinryouyou/>

腎臓病療養指導士認定要件等の詳細は、ホームページをご覧ください



職種の内訳

③ 新専門医制度について

日本専門医機構の動き

一般社団法人日本専門医機構は、国民および社会に信頼される専門医制度を確立し、専門医の育成・認定およびその生涯教育を通じて、良質かつ適切な医療を提供することを目指しています。

重要なお知らせ

すべての情報を見る >

- 2017.09.14 >  専門医を目指す医学生・臨床研修医の皆様へ「平成30年度スタート予定の新しい専門医制度の開始に当たって」
- 2017.08.28 >  総合診療専門医研修プログラム申請の受付終了と内科研修についての確認のお願い
- 2017.08.18 > 総合診療専門医研修プログラム申請受付期間を延長しました。
- 2017.08.10 >  「総合診療専門医研修プログラムについて（お願い）」を掲載いたしました
- 2017.08.09 > 『総合診療専門医研修プログラムについて』の申請書類の掲載および申請受付が開始されました。

専門医とは

About Medical Specialist

日本専門医機構が認定する「専門医」とは、それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、十分な知識・経験を持ち、患者から信頼される標準的な医療を提供できるとともに、先端的な医療を理解し情報を提供できる医師と定義されます。

機構便り（理事会概要など）>

最新情報

Information

すべての情報を見る >

- 2017.09.12   9月21日（木）記者発表会開催のお知らせ
- 2017.09.05  専門医認定・更新「専門医共通講習会 開催情報」を掲載いたしました
- 2017.09.04   第17回理事会（平成29年9月1日）が開催されました
- 2017.08.24  9月1日（金）記者発表会開催のお知らせ

平成 29 年 9 月 12 日

専門医を目指す医学生・臨床研修医の皆様へ
平成 30 年度スタート予定の新しい専門医制度の開始に当たって

一般社団法人 日本専門医機構
理事長 吉村 博邦

1. 平成 30 年 4 月からの専門研修の開始について

わが国の「新しい専門医制度」については、地域医療への懸念等が示されたことから、その開始が遅れておりました。

このたび、厚生労働省により設置された「今後の医師養成の在り方と地域医療に関する検討会（本年 4 月設置）」等での議論を踏まえて、本機構の専門医制度の「新整備指針」、「運用細則」、「補足説明」等の改定が終了しました。これを受けて、本年 8 月 4 日開催の機構理事会で、来年（平成 30 年）4 月からの新しい専門医養成の研修のスタートに向けて、本年 10 月 1 日（予定）から専攻医の一次登録を開始し、さらに、12 月中旬を目途に二次登録を行う運びとなりました。

医学生ならびに臨床研修医の皆様には、諸般の事情から、制度開始に向けての表明が遅くなりましたことを、心よりお詫び申し上げます。

2. 専攻医としての登録等に関わる今後の対応について

研修を希望するみなさんの具体的な登録の手順等については、現在、最終調整中です。決定次第、機構のホームページとともに、各基本領域学会のホームページに掲載予定です。実際の登録にあたっては、必ず、希望する領域のホームページ等を参照の上、対応されるようお願い致します。

以下に、現在（平成 29 年 8 月末）までに決定している事項を記載致します。

（1）研修領域

来年度は、以下の基本 19 領域の研修がスタートします。

内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、病理、臨床検査、総合診療。

（2）対象者

- ① 原則として、医師臨床研修（国の医師臨床研修制度による）を平成 30 年 3 月末に終了予定の医師（臨床研修医）。
 - ② かつ、上記（1）記載の専門研修を希望する者。
- * 医師臨床研修の終了が数か月遅れる場合を含む。

【注 意】その他の医師について

- ① 旧制度で基本領域の専門研修中の医師は含みません。
旧制度による専門医取得者は、更新時に基準を満たすことにより新たな制度への移行となります。
- ② 専門研修中ではない医師は対象となります（領域による違いがありますので、各領域学会にお問い合わせください）。
- ③ 現在すでに地域医療に従事している医師や、勤務場所や勤務時間に制約のかかることが予想される女性医師等については、別途学会に相談してください。また、必要に応じて機構もご相談に応じます。

（3）登録に当たっての事前の調整等について（ご注意）

- ① 新しい仕組みによる専攻医の登録は、初期臨床研修制度のマッチングとは異なっています。
コンピューター上で、自動的に登録を確定するシステムではありません。プログラム統括責任者が希望者との間で決定することになっています。そのため、一つのプログラムしか登録できません。
- ② 登録を確定する前に、登録画面上のプログラム一覧から希望するプログラムを選び、あらかじめ希望者と希望する研修プログラム統括責任者（基幹施設の責任者）との間で連絡をとり、「登録希望」を伝え、研修内容や条件等について十分に理解を深め、調整を済ませたうえで、登録を行うことをお勧めします。

(4) 登録方法

詳細が決定次第、登録マニュアルを公表します。

- ① 一次登録期間（現在のところ、下記を予定しています）

平成 29 年 10 月 1 日（予定）～平成 29 年 11 月 15 日

- ② 登録の窓口

研修希望者は、希望する各領域学会のホームページにアクセスし、各領域学会のホームページを窓口として、機構が作成した登録システムに入ることとなります。
システムに関する相談は、機構で対応します。
（なお、総合診療専門医は機構のホームページからの登録になります）

- ③ 登録前の注意

研修希望者は、実際の登録の前に、上記（3）の事前の調整を行ってください。

領域によって多少の違いがあることが予測されます。希望者は、登録にあたって、希望する領域学会等のホームページ上の注意事項を必ず参照してください。

- * 総合診療専門医についても、他の専門領域と同時に登録開始となる予定です。

(5) 研修プログラムの閲覧について

各基本領域で一次審査が終了した研修プログラムについては、各領域学会のホームページから一覧を参照することが可能です（総合診療領域は審査中ですので、しばらくお待ちください）。

研修プログラムについては、今後、都道府県協議会での協議を経て、機構での二次審査により最終決定されます。審査の結果により、若干の変更がありえます。

3. 今後のスケジュールについて

詳細が決定次第、機構ホームページおよび各領域学会のホームページ上でお知らせします。現在のところ以下のスケジュールを予定しています。

- ① 平成 29 年 10 月 1 日（予定）～11 月 15 日 一次登録
- ② 平成 29 年 11 月 16 日～11 月 30 日 採用確認・調整期間
- ③ 平成 12 月 1 日～12 月 15 日 採用期間
 - * 採用期間内にメールで採否が通知されます。
- ④ 平成 29 年 12 月 16 日～平成 30 年 1 月 15 日 二次登録
- ⑤ 平成 30 年 1 月 16 日～平成 30 年 1 月 31 日 採用確認・調整期間
- ⑥ 平成 30 年 2 月 1 日～平成 30 年 2 月 15 日 採用期間
 - * 採用期間内にメールで採否が通知されます。
- ⑦ 二次登録終了後も、研修先の決まらない希望者は、引き続き空席のある各領域の基幹施設と連絡をとり、研修プログラムへの登録を可能とする予定です。

4. おわりに

来年から開始される新しい専門医制度は、プログラム制の導入など、これまでにない新しい仕組みです。来年初頭を目途に、万が一、新たな専門医制度によって地域医療への影響や専門研修レベルについて改善する必要がある場合には、混乱をできる限り避けつつ、必要に応じて、応募状況等の調整を行うことを考えています。

以上、新たな専門医制度は、わが国の現在の高い医療レベルの確保と発展に寄与し、また、地域の患者の方々にとって最良の医療が提供される体制の構築を目指すことが目的です。機構としては、専攻医の方々に配慮した研修体制を提供する所存ですので、ご協力のほど宜しくお願い致します。

以上

参考

新しい専門医の仕組みについては、機構ホームページ「重要なお知らせ」から「専門医制度の概要と Q&A」、「専門医制度新整備指針」、「運用細則」、「補足説明」をご参照ください。

日本内科学会の動き



一般社団法人
日本内科学会
The Japanese Society of Internal Medicine

パーソナルウェブ ログイン

お問い合わせ

Google カスタム検索



会員ID、パスワードについて

講演会・各支部

認定医制度

刊行物

専門医部会

日本内科学会について

HOME » 認定医制度 » 新しい内科専門医制度に向けて

新しい内科専門医制度に向けて

- ◇ 2017年9月15日：「J-OSLERについて」を公開しました。FAQを追加しました。スケジュールを更新しました。NEW
- ◇ 2017年9月5日：スケジュールを更新しました。FAQを追加しました。
- ◇ 2017年9月4日：一部報道に関する周知事項をFAQに掲載しました。
- ◇ 2017年8月22日：「新しい内科専門医制度に向けて」サイトリニューアルFAQの拡充、スケジュール、リンク（日本専門医機構）の設置
- ◇ 2017年8月21日：【重要】一次審査を終えた研修プログラムを公表しました。
- ◇ 2017年8月21日：「研修カリキュラム制への対応について」を掲載しました。
- ◇ 2017年8月21日：「プログラム整備基準」「研修手帳（疾患群項目表）」「技術・技能評価手帳」「モデルプログラム」において、「J-OSLER」に関する語句修正を行ないました。



新制度について



研修プログラム一覧



FAQ



制度に関する資料



更新情報



スケジュール



J-OSLERについて



日本専門医機構

認定医制度

認定医制度について

新しい内科専門医制度に向けて

◇ プログラム申請について

◇ 制度に関する資料

◇ 専攻医登録（応募）スケジュール

◇ 平成30年度（2018年度）に向けて

◇ 按分について

◇ 新制度について

◇ 新専門医制度FAQ

◇ 更新情報

◇ 研修プログラム（平成30年度開始分）の再募集に向けた申請書式の公表

◇ 研修プログラム申請に関する重要なお知らせ

◇ 研修プログラム申請時のデータインポートについて

◇ 内科専門医研修カリキュラム（新しい内科専門医制度）

◇ 研修関連

◇ 病歴要約

◇ 資格認定試験

◇ 認定更新

◇ 単位取得のための諸企画

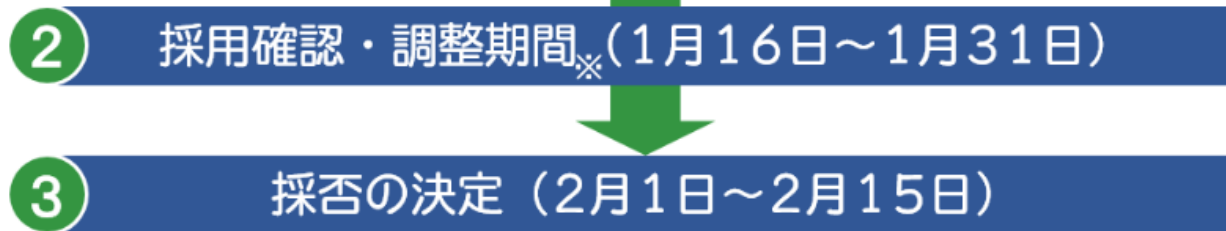
✉ 新専門医制度についてのお問い合わせは shinseido@naika.or.jp までお送りください。

専攻医登録（応募）スケジュール
（9月14日に公表された日本専門医機構の文書をもとに作成）

1 次登録



専攻医の一次登録の開始は
10月10日から！



※ 内科学会は採用調整を行いません。調整は内科だけではなく、他の領域を跨いで行う可能性もございます。
このような調整案件は日本専門医機構の設立趣旨に鑑みても、日本専門医機構が行

2018年4月から研修プログラム開始

日本小児科学会の動き



公益社団法人

日本小児科学会

Japan Pediatric Society

会員専用ページへ▶

リンク ▶ サイトマップ ▶ English

検索キーワードを入力

検索



学会について

各種活動

小児科専門医

ガイドライン・提言

刊行物

プレスの方へ

一般の皆さまへ



第121回

日本小児科学会学術集会

その子どもの幸せのために。

会期 2018年 4月20日(金)~4月22日(日)

会場 福岡国際会議場

会頭 廣瀬 伸一 福岡大学医学部小児科 主任教授



保護者・教育関係の方

一般の皆さまへ



＜こどもの救急＞

症状別チェックにできる「救急&予防」サイト

＜予防接種・感染症＞

推奨スケジュール等、日本小児科学会からの公式情報です。

学会 INFORMATION

重要なお知らせ

- ▶ 専攻医の登録のお願い 2017年03月03日
- ▶ 小児科専門研修を開始する方へ 2017年03月03日
- ▶ 専攻医募集にかかる最新情報の掲載について（依頼） 2016年12月01日
- ▶ 基幹施設（プログラム）募集人数一覧 2016年08月01日
- ▶ 日本小児科学会における新専門医制度に関する対応について 2016年07月25日

▶ 過去のお知らせ

▶ 小児科学会からのお知らせ

▶ 他団体から

- | 各種活動 | 内容 | 日付 |
|------|---|-------------|
| 各種活動 | 民間事業者が提供する非発症保因者診断を目的とした臨床研究「夫婦遺伝子スクリーニング検査」についての懸念について | 2017年09月15日 |
| 会員専用 | 会員専用ホームページに新しいお知らせを掲載しました。 | 2017年09月15日 |
| 各種活動 | 第8回JPLS小児診療初期対応コースの受講者募集を開始しました。 | 2017年09月13日 |
| 各種活動 | 「先天性股関節脱臼予防と早期発見の手引き」について | 2017年08月27日 |
| 各種活動 | リレーコラム キャリアの積み方—私の場合—toコラム31を掲載しました。 | 2017年08月21日 |
| 各種活動 | 「今冬のインフルエンザについて（2016/2017シーズン）」（国立感染症研究所、厚生労働省結核感染症課）について | 2017年08月18日 |

PICK UP CONTENTS



専門医 更新をされる方



Injury Alert（傷害速報）



小児科学会雑誌



PEDIATRICS INTERNATIONAL



Asian Society for Pediatric Research

東日本大震災小児医療復興新生事務局

健やか親子21

エコチル調査について

ご入会はコチラから



2016年7月24日

日本小児科学会における新専門医制度に関する対応について

公益社団法人 日本小児科学会
会長 高橋 孝雄

平素は学会の運営にご協力いただき心より御礼申し上げます。

以下の経緯を踏まえ、小児科専門医研修を2017年度より、新制度、すなわちプログラム制で行うことが日本小児科学会理事会（2016年7月24日開催）で承認されました。

さて、小児科専門医研修プログラムにつきましては、募集、申請受付、1次審査を経て、すでに159プログラムが理事会で承認され、新制度に基づいた専門医研修を2017年4月より開始すべく準備を進めておりました。しかし、ご存知の通り、日本専門医機構による2次審査は当面は行われないことになったため、学会による1次審査をもってプログラム承認となっております。

1次審査においては、本制度の実施により小児科医の地域偏在が助長されることのないよう、以下の点について十分な配慮と検証がなされました。

- 基幹・連携施設の認定基準により、現制度において実績を上げている施設が除外されないこと
- 研修施設群の構成が適正であること
- プログラム認定施設が存在せず空白となっている2次医療圏が存在しないこと
- ローテート方法、研修内容が地域医療に十分配慮したものであること

さらに、プログラム内容と指導医数、施設規模を踏まえ、当該地域・地方の小児医療提供体制に配慮した適正定員の設定について、個々の基幹施設の同意を得ております。

日本専門医機構からは、「2018年を目途に一斉にスタートできることを目指す」との報告（H 28. 7. 21）がありましたが、日本小児科学会としては、これ以上プログラム開示が遅れますと、現場にさらなる混乱を招き、小児科専門医となることを目指す医師に重大な不利益を生じることになると判断いたしました。また、領域を問わず機構認定のプログラム制による専門医制度がいずれ実施されることは間違いなく、早期に機構の理念に沿ってプログラム制での専門医研修が開始されることが、機構認定専門医へのスムーズな移行においても有利と考えられます。

つきましては、一次審査でプログラムの承認を受けた基幹施設におかれましては、別紙「小児科研修プログラムスケジュール」に沿って、2016年8月1日付で新プログラムを公開、専攻医の募集を開始してください。なお、研修プログラムが適切に実施されていることの確認調査を実施することを検討中です。新制度におきましても従来通り、引き続き適正な運営をお願いいたします。

新しい専門医制度の発足に向けて多大なるご尽力ご協力をいただきました会員の皆様に対して、改めて心より深く感謝申し上げます。また、2017年度からの小児科専門医研修開始を目指しておられる方々におかれましては、多大なるご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

日本小児科学会は今後も、小児科専門医となることを目指す医師が安心して研修に励むことができるよう責任をもって対処いたします。

*小児科研修プログラムスケジュール

 [プログラム責任者の方へ](#)

 [小児科専門医を目指す方へ](#)

2017年4月から研修プログラム開始

日本泌尿器科学会の動き



日本泌尿器科学会
The Japanese Urological Association

▶ 一般のみなさま ▶ 会員ページ ▶ English ▶ 事務局 ▶ サイトマップ



ホーム



当学会について



専門医制度



学会開催案内



学会誌



お知らせ



よくあるご質問



関連学会・
その他リンク



JUA academy
Everything you need is always at hand.



教育コース・handout



eラーニング



研修単位・業績登録



ジャーナル・抄録



ガイドライン・規約



専門医試験



Webキャスト



教育カレンダー



コア・カリキュラム



ログイン

会員専用ページ (My Web)

ログイン

会員情報の変更、
選挙関連情報、
学会賞・助成金公募情報、
交流プログラム、
理事会・総会議事録、
各種委員会報告、
学会雑誌閲覧、他

パスワードをお忘れの方はこちら

賛助会員の
みなさまへ (ログイン)

第82回日泌東部総会

第69回西日本泌尿器科学会総会

第67回日泌中部総会

第106回日泌京都総会



ホーム



当学会について



専門医制度



学会開催案内



学会誌



お知らせ



よくあるご質問



関連学会・その他リンク

ホーム 専門医制度 専門医制度について 新専門医制度について

専門医制度

専門医教育施設紹介

認定専門医一覧

腹腔鏡認定医一覧

専門医制度について

専門医制度について

専門医の取得について

専門医制度規則・申し合わせ事項

研修単位・業績発表

新専門医制度について

お知らせ

各種申請

専門医認定申請

専門医更新・指導医申請

教育施設認定・更新

認定試験

専門医認定試験のご案内

認定試験ガイドライン

既出問題（問題集CD）

お知らせ

研修開始登録

研修開始登録のご案内

お知らせ



新専門医制度について

新しい専門医制度に関しましては、現在混乱している状況であり、学会といたしましても対応に苦慮しております。確定した内容等についてお知らせいたしますので、会員各位におかれましては「新着情報」について随時ご確認いただきますようお願いいたします。

新着情報（2017年7月13日更新）：

2017年7月13日 専門医認定更新についてのご案内

2017年5月16日 泌尿器科専門医研修プログラム申請について

2017年4月22日 第105回日本泌尿器科学会総会 専門医制度企画
新専門医制度の概要
専門医制度整備指針の改定と今後の動向

2016年11月8日 新専門医制度の概要

2016年10月17日 機械の専門医の認定・更新 について（日本専門医機構より）

2016年8月17日 新たな専門医制度の運用等に関する日本専門医機構の基本的な方針について

泌尿器科専門医更新基準および関連ファイル

1. 泌尿器科専門医 新更新基準 V8 [PDF: 348 KB]

2. 別添資料 [PDF: 135 KB]

3. 参照資料

1) 参照資料1：泌尿器科領域の主な手術一覧表 [PDF: 133 KB]

2) 参照資料2：泌尿器科専門医教育研修単位一覧表（2017年4月版） [PDF: 379 KB]

4. 機構専門医更新に関するご案内

1) 機構専門医申請書（様式1、4、5、6） [Word: 39 KB]

2) 機構専門医申請書（様式2、3） [Word: 113 KB]

3) 会員カードの更新について [PDF: 116 KB]

5. 機構専門医更新のための講習単位一覧表（2017年9月現在）

機構専門医更新のための講習単位（ご案内） [PDF: 51 KB]

1) 専門医共通講習 [PDF: 154 KB]

2) 専門医共通講習（e-ラーニング） [PDF: 80 KB]

3) 泌尿器科領域講習（卒後教育プログラム） [PDF: 218 KB]

4) 泌尿器科領域講習（総会企画プログラム） [PDF: 60 KB]

5) 泌尿器科領域講習（e-ラーニング） [PDF: 82 KB]

6) 泌尿器科領域講習（WEBINAR・AVJ・問題集） [PDF: 63 KB]

7) 泌尿器科領域講習（関連学会・地方会） [PDF: 167 KB]

6. 過渡期専門医資格の更新について [PDF: 97.6 KB]

7. 機構専門医のための講習単位認定申請について [PDF: 87 KB]

1) 診療領域別講習単位認定申請書 [Excel: 22 KB]

2) 専門医共通講習単位認定申請書 [Excel: 23 KB]

泌尿器科専門医研修プログラム整備基準

1. 泌尿器科専門医研修プログラム整備基準 V5 [Excel: 110 KB]

専門医研修プログラム申請書および関連書式一式

1. 泌尿器科専門医研修プログラム申請についてのご案内と申請書フォーム

・ 泌尿器科専門医研修プログラム申請について [Word: 18 KB]

1. 泌尿器科専門医研修プログラム申請書A [Excel: 119 KB]

2. 専門医研修プログラム申請書B（連携施設概要） [Excel: 33 KB]

3. 別紙 基幹および連携施設 診療実績2018年用 [Excel: 28 KB]

4. 別紙 施設群 診療実績 [Excel: 20 KB]

・ 書類作成についての注意

1. 外来入院数の定義と初期臨床研修医数不要について [Word: 13.3 KB] [PDF: 129 KB]

2. 専攻医受入数について [Word: 14.9 KB] [PDF: 108 KB]

2. モデルプログラム [Word]

◆『紀の国県立医科大学泌尿器科専門医研修モデルプログラム（修正版）』

※下記（1）～（5）のモデルプログラムについては、泌尿器科専門医研修プログラム整備基準V4に基づいて作成されております。

整備基準V5に基づいて変更された箇所につきましては「紀の国県立医科大学泌尿器科専門医研修モデルプログラム（修正版）」にてご確認ください。

(1) 下総中央地域泌尿器科専門医研修プログラム（都市近郊・地域中核型大学）

(2) 房総大学泌尿器科専門医研修プログラム（都市型大学）

(3) 尾張都市型大学専門医研修プログラム（都市型大学）

(4) 紀の国県立医科大学泌尿器科専門医研修プログラム（地方型大学）

(5) 長防泌尿器科専門医研修プログラム（地方型大学）

◆泌尿器科専門医研修プログラム作成に関する説明会について（2015年実施）

説明会資料等

・ 日本専門医機構と専門医研修プログラム整備基準の概要 [PPT: 3 MB] [PDF: 4 MB]

・ 泌尿器科専門医研修プログラム申請の実際 [PPT: 11 MB] [PDF: 11 MB]

1) 泌尿器科専門医研修プログラム作成に関する説明会（11月18日東京）終了しました

・ 質疑応答（11月18日） [PDF: 253 KB] [Word: 18 KB]

2) 泌尿器科専門医研修プログラム作成に関する説明会（12月9日大阪）終了しました

・ 質疑応答（12月9日） [PDF: 278 KB] [Word: 21.2 KB]

Q & A

1. 更新についてのQ & A V4 [PDF: 146 KB]



2018年4月から研修プログラム開始

日本腎臓学会の動き

専門研修制度整備基準 (案)

【腎臓領域】

一般社団法人 日本腎臓学会

2017/8/21

5-10.基本領域との連続性について

腎臓専門医研修は、内科、小児科、泌尿器科、外科の基本領域の研修の上に位置付けられる。通常、これらの基本領域を修了したのち、腎臓専門医研修をはじめることを念頭に制度が設計されているが、これらのうち、内科領域ではサブスペシャリティ重点型コースや内科・サブスペシャリティ混合コースとして腎臓領域専門研修を連動して研修することも可能である。ただし、このような連動研修を行う場合には、内科専門研修、腎臓専門研修のそれぞれの質が低下しないように、双方の専門研修委員会で議論する必要がある。

- 腎臓専門医制度はプログラム制ではなく、カリキュラム制で行う。
- 腎臓専門研修は最短3年の認定施設（指導医が1名在籍）での研修が必要。ただし、指導医がいない施設においても、一定期間の研修を認める方針で地域医療への配慮をおこなう予定。
- 研修病院群を組む必要はなく、単独の病院での研修を認める。
- 現状では、内科学会は2018年4月に新専門医制度研修プログラムを開始する。その際、サブスペシャリティ連動研修を認めるので早い方は、2018年4月から内科研修と並行して、腎臓専門研修を開始することも可能。
- 腎臓専門研修では内科研修で使うJ-Oslerを使う予定。サブスペシャリティ研修での利用は早くても1年遅れることになる。従って、内科研修中に、腎臓指導医が指導した症例は遡って承認する予定。

研修病院について

- ❖ 認定教育施設は指導医が1名いることが必須。
- ❖ 専門医はいるが、指導医がいない施設においては、専門医が指導医を取得するまでの3年間を限度に、学会に申請することによって、特別認定指導医となることができる。特別認定指導医が、指導医と同じ役割を果たすことで、認定教育施設と行う場合には、指導医のいる認定教育施設と連携を取ることで1年間を上限として研修をおこなうことも可能とする。
- ❖ 専門医もない病院(特別連携施設)での研修をおこなう場合には、指導医のいる認定教育施設と連携を取ることで1年間を上限として研修をおこなうことも可能とする。

経験すべき症例

入院症例140例
外来症例 60例

それぞれ80%以上経験していることが必要

病歴要約

入院症例20編
外来症例 2編

基本領域内科以外の経験すべき症例は、各科の状況を配慮して決める。

					専門研修修了要件			
					入院症例提出病歴要約	外来症例提出病歴要約	入院症例	外来症例
1	1A	CKD	検尿異常 糖尿病性腎症 腎硬化症 腎移植後（レシビエント、ドナー） その他のCKD（腎生検未実施の糸球体腎炎など）		2	1	10	10
	1B	末期腎不全	血液透析導入症例 腹膜透析導入症例 腎移植導入症例		2		20	
	1C		維持透析症例（ESKD患者、HD、PD施行中の患者）、腎移植後患者			1		10
	1D		合併症を併発した末期腎不全（感染症、シャント不全、心不全、CKD-MBD、その他）		2		20	
2		急性腎障害	腎前性 腎性 腎後性 その他の急性腎障害		2		15（うち10例まではコンサルテーション症例を認める）	
3	3A	一次性糸球体疾患	ネフローゼ症候群 慢性糸球体腎炎（腎生検あり） 急性糸球体腎炎 RPGN		3		20	5
	3B	二次性および遺伝性糸球体疾患	アミロイド腎症 単クローン性免疫グロブリン沈着症 ループス腎炎 SLE以外の膠原病による腎症 クリオグロブリン血症 抗GBM抗体病（Goodpasture症候群） IgA血管炎（Schönlein-Henoch 紫斑病、アナフィラクトイド紫斑病） 抗好中球細胞質抗体関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症（Wegener肉芽腫症）、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（Churg-Strauss症候群）） HCV腎症、HBV腎症 その他の感染に伴う腎炎（敗血症、感染性心内膜炎など） Alport症候群、菲薄基底膜病、Fabry病		2		15	2
4	4	尿細管・間質疾患	薬剤性腎障害 間質性腎炎（特発性間質性腎炎、Sjögren症候群、IgG4関連疾患など） 骨髄腫腎 逆流性腎症（膀胱尿管逆流現象） 遺伝性（腎性糖尿、Bartter症候群 / Gitelman症候群、Liddle症候群、Fanconi症候群、Dent病（特発性尿細管性蛋白尿症））		1		5	2
5	5A	高血圧症	本態性高血圧症 腎性高血圧 腎血管性高血圧 内分泌系高血圧症 高血圧緊急症		1		5	10
	5B	腎血管疾患	虚血性腎症 血栓性腎血管病（腎梗塞、腎静脈血栓症） TMA（TTP、HUS、aHUSなど） コレステロール塞栓症		1		5	
6	6	水電解質酸塩基平衡異常	脱水症、浴水症、体液量減少 尿崩症 Na代謝異常 K代謝異常 Ca、P、Mg代謝異常 代謝性アシドーシス 代謝性アルカローシス		2		20（うち15例まではコンサルテーション症例を認める）	10
7	7A	腎尿路感染症	下部尿路感染症（性行為感染症、出血性膀胱炎を含む） 急性腎盂腎炎 慢性腎盂腎炎		1		2	5
	7B	泌尿器科疾患	嚢胞性腎疾患（多発性嚢胞腎） 腎・尿路腫瘍（腎腫瘍、腎盂・尿路腫瘍、膀胱腫瘍） 腎・尿路結石 前立腺肥大症、前立腺癌		1		3	6
					20	2	140	60

多様なキャリアのサポート

- 疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止は可能であり、研修修了要件を満たしている場合は、休職期間が6か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする。6か月を超える期間の休止の場合も、研修の再開は可能であり、再開までの休止期間の上限は定めない。通算3年以上の研修をおこなって、修了要件を満たしていれば、修了可能である。
- 短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1日8時間、週5日を基本単位とする)を行なうことによって、研修実績に加算される。

以上が、現状の理事会で承認されている案。
ただし、今後、専門医機構との折衝の中で、
条件が変わることはあり得る。

④ 腎臓病対策委員会の取り組み (糖尿病性腎症重症化予防など)

糖尿病性腎症重症化予防の更なる展開に向けて
(平成29年7月10日 重症化予防(国保・後期広域)ワーキンググループとりまとめ)

(別紙1)

1. 現状

- 新規人工透析導入患者は約3万1千人であり、世界主要国のなかでは日本が最も人工透析患者数(人口当たり)が多い。このうち、原疾患が糖尿病性腎症である者が43.7%と最も多い。
- 医科診療医療費全体のうち糖尿病による医療費は約1.2兆円(4.4%)を占める。
- 人工透析には一人月額約40万円、年間約1.57兆円を要する等、医療費全体から見ても大きな課題。

2. 重症化予防を進める意義

(都道府県)

- 都道府県内の医療費適正化を推進、国保財政の基盤強化

(市町村・広域連合)

- 住民の健康保持・増進
- 医療費適正化、保険料の伸び抑制

(患者及び家族)

- 心身の苦痛、行動制限、金銭等の負担軽減
- 健康保持・増進、健康寿命の延伸、QOL向上

(かかりつけ医・専門医等)

- 医療機関未受診・治療中断患者の受診
- 医療機関の人的・物的資源の効率的活用

3. 基本的な取組の流れ

- 市町村等が基本的な取組を実施するときは、**庁内連携、地域連携、事業計画策定、事業実施、事業評価、次年度事業の修正をPDCAにより実施することが必要である。**
- 特に、**あらかじめ地域における医師会等の関係者と密接に連携することが必要である。**
【実施すべき事項】
 - ・ 医師会等に市町村等の課題や事業のねらいを情報提供する
 - ・ 医師会等と連携方策について協議し共通認識の形成を図る

(参考) 糖尿病性腎症重症化予防プログラム(平成28年4月20日付け保発0420第4号保険局長通知)において、基本的な取組の考え方や取組例を示している。地域の実情に応じた柔軟な対応が可能。

重症化予防の基本的な取組の流れ



5. 更なる展開に向けた取組

(1) 市町村

課題	更なる展開に向けて
● 取組を実施しない市町村の存在 ● 幹部等のリーダーシップの不足	○ 市町村の意識の啓発 首長・幹部等が意義を理解しリーダーシップを発揮し優先順位を上げることが重要。都道府県や国保連の研修等を活用した専門的人材の育成、国保担当課と健康増進担当課等との連携による市内人材の効率的活用、外部委託事業者の活用等が必要。健康の保持増進、健康寿命延伸と医療費適正化を目指す目標の明確化が重要。
● 組織の縦割りの弊害	○ 担当課の縦割の排除 予防・健康づくりの施策と医療費を踏まえた対応に向け、健康増進担当課と国保担当課等における縦割を排除し、組織一体的に取り組むことが必要。事務職の役割も大きく、業務を整理し個人の属性に頼らない仕組み化が重要。窓口を明示して内外の情報共有や協議を円滑にする工夫が必要。
● 事業目的とのかい離 ● 状況に応じた対象者の限定・変更	○ 抽出基準の明確化 従来の業務との連続性が重要。市町村等の状況に即した適切な対象者の抽出基準を設定することが必要。抽出基準が課題を解決するために適切か、医師会等と検討が必要。
● 医師会・かかりつけ医等との連携不足	○ 医師会等との連携の推進 対象者への継続的な医療を担うかかりつけ医等との連携は不可欠。特に、受療中断者や治療中の患者を対象とする場合は個別に連携・協力が必要。このため、企画段階から医師会等と協議し実施体制の合意形成が重要。かかりつけ医・専門医等の連携が円滑に進むよう地域の連携体制の整備が必要。
● 糖尿病対策推進会議等との低い連携	○ 都道府県糖尿病対策推進会議等との連携 都道府県との連携体制を確認したうえで、糖尿病対策推進会議等と連携することが必要。CKD対策のネットワークも活用が可能。情報提供のみではなく、取組のあり方や実施方法等について糖尿病対策推進会議と直接相談することが重要。

(2) 広域連合

課題	更なる展開に向けて
● 市町村との連携不足	○ 市町村との連携の推進 保険者機能を有する者として、保有する後期高齢者の健診・医療情報を積極的に構成市町村に提供。 ・広域連合と市町村の双方参画のもとで企画運営組織を設け、定期的に会議を開催するなど、実施体制の確保に努めることが必要。 ・高齢期に一貫性、連続性のある取組を行えるよう市町村と情報や課題を共有し、一貫した保健指導を行うなど連携を推進が必要。

(3) 都道府県

課題	更なる展開に向けて
● 幹部等のリーダーシップの不足	○ 都道府県の意識の啓発 平成30年度から国保の保険者としての役割を担うため、都道府県全体の問題として幹部等のリーダーシップが発揮されるよう進め、主体的な取組と市町村等への支援を行うことが重要。
● 庁内の縦割	○ 担当課の縦割りの排除 部署間の連携を密にすることが必要。 健康増進計画、医療費適正化計画等の策定主体として、関係課が一体で取り組むべき。
● 都道府県の取組の温度差	○ 市町村等への支援 都道府県の連携体制、支援内容の機能等を市町村等へ示すことが必要。 市町村等の実施状況を定期的に把握し、遅れている市町村を重点的に支援することが必要。 市町村等に都道府県の持つデータを提供することが必要。 ・人材不足・財政不足に悩む市町村等に人的・財政的支援を行うことが必要。 ・保健所の機能・人材を有効に活用し、医療関係者と市町村等のつなぎ役となる。

(3) 都道府県 わづき

- 少ない連携協定の締結
- 都道府県医師会 都道府県糖尿病対策推進会議等との連携不足
- 医療関係者との連携の促進
都道府県医師会 糖尿病対策推進会議 拠点病院等の医療関係者との連携を仲立ちする役割が必要。
糖尿病対策推進会議等の地域の実情に応じた組織を柔軟に活用して連携の枠組みを作り 市町村に具体的な連携方法を情報提供することが必要。
都道府県医師会 糖尿病対策推進会議等と連携協定を締結する。
- 都道府県版プログラムの未策定
- 都道府県版重症化予防プログラム策定の推進
市町村等の状況に応じた選定基準が設定できるようにする。
かかりつけ医等と保険者が相互に補完しながら策定することが必要。
地域の課題に柔軟に対応できるものとしつつ、連携体制など共通事項を示し 関係者との関係づくり、進捗管理、人材の計画的養成などを行う。
策定に当たっては、保険者努力支援制度で市町村 都道府県が評価されることを念頭におく。

(4) 糖尿病対策推進会議等

課題

更なる展開に向けて

- 市町村等との連携不足
- 連携の認識不足
- 構成団体の地域差
- 市町村への周知不足
- 糖尿病対策推進会議等と市町村等との連携の意義
従来の事業のほか、行政と連携 協力して行う個々の支援を想定した具体的取組の検討を進めることが必要。
- 糖尿病対策推進会議等の体制のあり方
かかりつけ医等と専門医等が連携できる団体構成とするとともに、歯科 保健 看護 栄養 薬剤等の幅広い専門職と連携を図ることができる体制が必要。
- 市町村等との直接的な連携の不足
- 市町村等との連携体制の構築
都道府県と連携を進め、都道府県糖尿病対策推進会議と市町村等の連携のあり方をあらかじめ協議し、地域の実情に合った体制構築に協力することが必要。
必要な場合には専門医等へ相談できる支援体制を構築することが必要。
市町村担当者が直接相談できる一元的な窓口を提示する。

(4) 糖尿病対策推進会議等 (つぎ)

課題	更なる展開に向けて
● 多様な治療ガイドラインの存在 ● 多くの専門職種の関わり	○ 構成団体による取組の推進 各構成団体は、担当者を置き専門性に応じた可能な取組を行うことが必要。 重症化予防に寄与する多職種は必要に応じて協力体制を構築し効果的に実施する。 学会等でのシンポジウムや研修会を関係団体共同で開催することにより 会員へ連携体制を周知・啓発することが重要。 かかりつけ医と専門医等が地域で連携できる仕組みを築くことが必要。

(5) 関係団体

課題	更なる展開に向けて
● 都道府県 市町村との連携体制構築の問題	○ 医師会等関係団体による行政機関との連携 医療関係団体それぞれが連携が進んでいない市町村等の求めに応じて必要な協力を行うよう周知・啓発が必要。

(6) 国保連

課題	更なる展開に向けて
○ 保険者保有データの未活用	○ KDB活用等による支援 健診データと合わせてレセプトデータから受診状況、服薬等の状況の確認ができるため、KDBによりレセプトデータの活用を再検討することが重要。 今後も支援 評価委員会やKDBを充実して市町村への支援を行うことが必要。

7) 取組内容の充実

課題

更なる展開に向けて

- 対象者からの受診勧奨や保健指導の断り
- 住民の理解と参加を得るための方策の推進
対象者及び家族や近隣住民、地域の企業等へわかりやすい方法で周知徹底が重要。対象者自身が自主的に取り組むよう個人インセンティブを併用することも必要。保健指導員や健康づくり推進員の養成や催しの開催、要望の吸い上げ等、住民を受け手から担い手にする健康なまちづくりの工夫が必要。
- 取組等の濃淡の存在
- 取組等の濃淡を比較する手法の検討・開発
基本的な取組を他市町村等と比較することが難しく、実施状況の濃淡や自市町村等の位置づけが見える手法が検討・開発されることが必要。
- 取組の目標・評価・手法の検討
短・中・長期の評価指標を設定し、各期間でPDCAサイクルを意識した評価が必要。
エビデンスを踏まえたより効果の高い取組の手法が検討されることが必要。
効果的な介入方法、相関の高い評価指標を検討・開発することが必要。
- 保健・医療・福祉等との連携不足
- 地域包括ケアに向けての体制づくり
国保では前期高齢者の割合が高いことから、医療サービスに止まらず、高齢者を支える地域包括ケアシステムの構築を念頭に重症化予防に取り組むことが必要。

6. 国による支援

- 研究の推進
・継続的に市町村等の取組状況を把握し、国版プログラムの評価・検証することが必要。
- 取組状況の把握と情報提供・働きかけ
・市町村等の取組状況を評価・分析し、今後の取組の方向性を整理することが必要。
・都道府県の支援状況等を把握し、都道府県間の進捗状況をフィードバックし助言することが必要。
- 先進的事例の収集と横展開
・好事例の収集・横展開に努めることが重要。（とりまとめ別冊として事例集を作成）
- 医療関係者との連携
・国、都道府県、市町村、広域連合それぞれのレベルで医療関係者と連携を図ることが重要。特に国では、施策の更なる深化に努め、各地域での取組を支援することが必要。

6. 国による支援（つづき）

○ 制度的なインセンティブの活用

- ・平成30年度からの保険者努力支援制度（支援金）では重症化予防の取組を指標としているが、今後さらに指標の内容を進化させることが必要。

○ 関係施策との連携

- ・法定の計画や施策と密に連携する必要があることを都道府県に周知・啓発することが重要。

7. 留意点

○ 外部委託事業者の活用と留意点

- ・市町村等は、地域の実情に応じた必要な指示を行うなど、司令塔としての役割を果たすことが必要。

○ 個人情報の取扱い

- ・健診・レセプトデータは個人情報保護法に定める要配慮個人情報に該当するため、あらかじめ取扱いについて整理することが重要。
- ・市町村等による保健事業での個人情報の活用は一般的に条例で定める法令上通常想定される目的内利用であり、改めての個人同意は不要。
- ・市町村等有する健診・レセプトデータ等の個人情報は本人同意があれば都道府県への情報提供が可能。平成30年4月以降は給付点検等に必要範囲は、条例の範囲内で本人同意なくとも活用可能。
- ・医療機関はガイドスに従い個人情報を取り扱うことが必要。
- ・外部委託事業者は条例・契約書の定めに従い、安全管理措置等万全の対策を講じることが必要。

○ 被用者保険との連携

- ・国保の加入前からの予防・健康づくりが重要であり、被用者保険との情報提供の推進が重要。
- ・保険者協議会等を通じて、被用者保険から国保、後期高齢者医療制度の一貫した重症化予防の取組が重要。

○ 高齢者に対する対応

- ・後期高齢者は、前期高齢者であったときの状況やその後の状況変化が、加齢に伴う心身機能の変化とともに健康状態等へ影響を及ぼす可能性を考慮し、国保等の若者世代から連続した取組を進めることが必要。

⑤ ISN Frontiers meeting 2018

Photo by Prof. Makino

お知らせ

- ・理事長ご挨拶
- ・日本腎臓学会について
- ・診療ガイドライン
- ・学術情報
- ・学術集会など
- ・腎臓専門医
- ・会員向け
- ・国際関連の活動報告
- ・男女共同参画について
- ・サポーター制度
- ・キーパーソン報告
- ・Journal
- ・海外留学情報サイト
- ・腎臓病療養指導士に

腎臓の健康チェック!!

腎機能測定ツール

年齢と血清クレアチニン値からeGFRの値を推算できます

Facebook

663 いいね

一般社団法人日本腎臓学会
Facebookページ
【URL】
www.facebook.com/jsnorgjp

重要なお知らせ

一覧はこちら

2017.08.14 【第47回西部大会】「西部若手腎臓クイズチャンピオン大会」出場者募集のご案内

2017.07.04 ISN FRONTIERS MEETINGS広報小委員会からのお知らせ

2017.06.02 仙台宣言

2017.06.01 第39回 腎臓セミナー・Nexus Japan 平成29年8月26日(土)

2017.05.01 平成29年度日本腎臓学会総会審議事項(第60回学術総会会期中開催)

ニュース&トピックス

一覧はこちら

2017.09.13 55th ERA-EDTA Annual Congressについて

2017.09.04 【更新】海外留学情報サイト更新のお知らせ

2017.09.01 Asian Pacific Congress of Nephrology (APCN 2018) – call for abstract

2017.08.29 日本腎臓学会5ヶ年計画

2017.08.28 ISN FRONTIERS MEETINGS 2018についてのQ&A

学術集会のご案内

今後の学術集会

第47回日本腎臓学会東部学術大会[別ウィンドウ]

第47回日本腎臓学会西部学術大会[別ウィンドウ]

第60回日本腎臓学会学術総会
動画オンデマンド視聴はこちらから

臨床研究はこちらから

ISN FRONTIERS MEETINGS

KIDNEY DISEASE & CARDIOVASCULAR DISEASE
FEBRUARY 22-25, 2018
TOKYO, JAPAN

Japanese Society of Nephrology Japanese Society for Dialysis Therapy

Advancing Nephrology Around the World

ISN FRONTIERS MEETINGS

Home About ISN Program Abstracts Registration Venue Sponsors Contact

ISN FRONTIERS MEETINGS

KIDNEY DISEASE & CARDIOVASCULAR DISEASE
FEBRUARY 22-25, 2018
TOKYO, JAPAN

Japanese Society of Nephrology Japanese Society for Dialysis Therapy

Advancing Nephrology Around the World

Tokyo, Japan

Tokyo is the capital of Japan and the seat of the Emperor of Japan and the Japanese government. In 2014, Tokyo was ranked first in the "Best overall experience" category of TripAdvisor's World City Survey (the city also ranked first in the following categories: "helpfulness of locals", "nightlife", "shopping", "local public transportation" and "cleanliness of streets"). The Michelin Guide has awarded Tokyo by far the most Michelin stars of any city in the world. Tokyo also ranked first in the world in the Safe Cities Index.

Video invitation

Invited Lecture by Prof. Makino

Become a member

ISN

Become a member of ISN and help support ISN's philanthropic and humanitarian activities in addition to receiving many valuable benefits including reduced rates to the ISN Frontiers meetings.
Click on the ISN logo for more information.

Important dates

- Registration and abstract submission: open
- Abstract submission deadline: October 20, 2017
- Early registration fee deadline: November 27, 2017

ISN Frontiers meetings

ISN Frontiers meetings build on the success and achievements of the ISN Nexus and Frontiers series, bringing together basic scientists, clinicians and practitioners in a unique setting. This new event format will make more cutting-edge science available to a global audience, breaking down cross-regional barriers in accessing the latest knowledge and expertise.

Keep me updated

If you would like to be kept informed about the upcoming ISN Frontiers meetings, including registration deadlines, program updates and more, please register for updates below.

Your Email (*)

Send

Advancing Nephrology around the World

ISN

⑥ 第61回学術総会、 第48回東部・西部学術大会のお知らせ

日本腎臓学会は腎臓学研究の進歩と知識の普及、国民への啓蒙を目的としています。
一般社団法人日本腎臓学会 Japanese Society of Nephrology English 文字サイズ: 30

ホーム 一般の方へ 学生・研修医向け 医療従事者向け 会員向け

Photo by Prof. Makino

Japanese Society of Nephrology

お知らせ

- 理事長ご挨拶
- 日本腎臓学会について
- 診療ガイドライン
- 学術情報
- 学術集会など
- 腎臓専門医
- 会員向け
- 国際関連の活動報告
- 男女共同参画について
- スポーター制度
- キーパーソン報告
- Journal
- 海外留学情報サイト
- 腎臓病療養指導士に

腎臓の健康チェック!!

野機能測定ツール

年齢と血清クレアチニン値から
eGFRの値を推算できます

Facebook 663 いいね

一般社団法人日本腎臓学会
Facebookページ
【URL】
www.facebook.com/jsnrjp

重要なお知らせ

2017.08.14 【第47回西部大会】「西部若手腎臓クイズチャンピオン大会」出場者募集のご案内

2017.07.04 ISN FRONTIERS MEETINGS広報小委員会からのお知らせ

2017.06.02 仙台宣言

2017.06.01 第39回 腎臓セミナー・Nexus Japan 平成29年8月26日(土)

2017.05.01 平成29年度日本腎臓学会総会審議事項(第60回学術総会会期中開催)

ニュース&トピックス

2017.09.13 55th ERA-EDTA Annual Congressについて

2017.09.04 【更新】海外留学情報サイト更新のお知らせ

2017.09.01 Asian Pacific Congress of Nephrology (APCN 2018) - call for abstract

2017.08.29 日本腎臓学会5ヶ年計画

2017.08.28 ISN FRONTIERS MEETINGS 2018についてのQ&A

学術集会のご案内

今後の学術集会

第47回日本腎臓学会東部学術大会(別ウィンドウ)

第47回日本腎臓学会西部学術大会(別ウィンドウ)

第60回日本腎臓学会学術総会
動画オンデマンド視聴はこちら

○ 第61回日本腎臓学会学術総会

会長：成田一衛・新潟大学医学部腎・膠原病内科教授
会期：平成30年6月8日(金)～10日(日)
会場：朱鷺メッセ
連絡先：新潟大学医学部腎・膠原病内科 後藤 真
第61回日本腎臓学会学術総会運営事務局
TEL：03-5842-4131/FAX：03-5802-5570

○ 第48回日本腎臓学会東部学術大会

会長：新田孝作・東京女子医科大学第四内科教授
会期：平成30年10月20日(土)・21日(日)
会場：京王プラザホテル
連絡先：東京女子医科大学学生健康管理センター教授 内田啓子
第48回日本腎臓学会東部学術大会運営事務局
株式会社メディカル東友コンベンション事業部
TEL：046-220-1705/FAX：046-220-1706

○ 第48回日本腎臓学会西部学術大会

会長：香美祥二・徳島大学医学部小児科教授
会期：平成30年9月28日(金)・29日(土)
会場：あわぎんホール徳島県郷土文化会館(予定)
連絡先：徳島大学小児科 漆原真樹
第48回日本腎臓学会西部学術大会運営事務局
株式会社日本旅行 中四国コンベンショングループ
TEL：086-259-5578/FAX：086-225-9305
E-mail：jinseibu48@wjcs.jp

第61回

飛翔 腎臓学の源から新世代へ
Fly High in the Future of Nephrology

2018.6.8^金・10^日

朱鷺メッセ／ホテル日航新潟

総会長 成田 一衛 新潟大学 腎研究センター
腎・膠原病内科学 教授

副会長 河内 裕 新潟大学 腎研究センター 腎分子病態学 教授

事務局長 後藤 眞 新潟大学 腎研究センター 腎・膠原病内科学 准教授

運営事務局 一般社団法人 日本腎臓学会 内
〒113-0033 東京都文京区本郷3-28-8 日内会館
TEL: 03-5842-4131 FAX: 03-5802-5570 E-mail: jsn61@umin.ac.jp

<http://jsn61.umin.jp/>

日本腎臓学会学術総会

© しいがたマーチング委員会



Japanese
Society of
Nephrology

The 61st Annual Meeting of the Japanese Society of Nephrology

⑦ 日本腎臓学会ロゴマーク取扱規定



使用にあたっては、
日本腎臓学会ロゴマーク使用届・使用願いの
提出が必要です

⑧ CKD診療ガイド・ガイドライン改訂中



CKD 診療ガイドライン 2018 作成のための SCOPE (8/10/2016)	
(1) タイトル	「エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン 2018」
(2) 目的	末期腎不全および CVD のリスク因子である CKD に関して、腎臓専門医および一般医家に対し、現時点において適切と判断される標準治療・マネージング方法を提示することで、CKD 患者のアウトカムを改善させる。
(3) トピック	CKD 全般に対する発症・進展予防、原疾患・合併症への治療介入および腎代替療法の導入
(4) 想定される利用者、利用施設	CKD 症例の診療に関わる可能性のある医療者および医療施設
(5) 既存ガイドラインとの関係	本ガイドラインは「エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン 2013」を、2011 年以降の新たなエビデンスおよび最新の関連領域ガイドライン（高血圧、糖尿病など）の内容を踏まえて改訂するものである。特に厚労科研丸山班の指定難病4疾患ガイドライン 2017 とは一部の内容を共有する。
(6) 重要臨床課題	重要臨床課題 1：日本における CKD 診断とその臨床的意義

2018年6月8日 第61回日本腎臓学会学術総会で 「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018」 上梓予定！

	重要臨床課題 9：CKD 発症/進展と肥満・メタボリックシンドローム 重要臨床課題 10：CKD 発症/進展と妊娠 重要臨床課題 11：小児における CKD 発症/進展の予防 重要臨床課題 12：後期高齢者における CKD 発症/進展の予防 重要臨床課題 13：CKD 進展例における透析導入 重要臨床課題 14：CKD 進展例における腎移植 重要臨床課題 15：CKD 発症/進展における薬物投与 重要臨床課題 16：CKD 発症/進展における糖尿病 重要臨床課題 17：指定難病による CKD 発症/進展の予防
(7) ガイドラインがカバーする範囲	CKD 発症/進展予防を目標とした専門医および非専門医を対象とした生活習慣病の管理、腎専門医を対象とした原疾患・合併症の管理・治療および CKD 進展例における腎代替療法の導入までをカバーする。急性疾患（急性腎炎など）や AKI、ループス腎炎などのガイドラインが確立されている疾患、腎代替療法導入後の管理などについては本ガイドラインでは扱わない。

【質疑応答】